

キャストはりま塾

住民参画のまちづくり

塾長 福原隆泰

I. 平成17年度の活動を振り返って



キャストはりま塾も4年目を迎え、『参画と協働』のまちづくりを旗印に、さらに具体的な活動展開できた実感を持っています。

3年間の活動を通して得られたことをステップにして、より具体的に、まちづくりは人づくりから、そして地域活動に参加するきっかけづくりを企画・実践しました。

石の上にも3年、今年は対外的なネットワークづくりと広報活動にも取り組みました。活動の輪を広げるために、緑化フェアでパネル展示を行い、地域通貨の試行も行い、子どもたちにボランティアをするきっかけづくりに取り組みました。

II どんな活動をしたの？【活動の目的・柱】

- ・住民と行政による「参画と協働のまちづくり」を実践する地域活動の橋渡し。
- ・行政とのリレーション・パートナーシップを図り、地域づくり活動の活性化を目指す。
- ・ため池という地域資源を活用したオンラインのまちづくりを目指す。

【活動の柱】

- ・「地域資源発見！」と題して、エコ・ツーリズム“新井用水路を歩く”を企画しています。
- ・「公益」という価値の創出と「互助」の観点からコミュニティの活性化を図る仕掛けとして地域通貨「LETS阿閉」の導入を検討しています。今年度は2回の流通実験を行いました。“緑化フェア”と“ため池コミュニティフェア” いずれも子どもたちに200回近い取引をカウントしました。
- ・町並みに彩と潤いを添えるご家庭のお庭を町内から見つけ出して表彰するコンテナ・ガーデニング・フォトコンテストを開催しています。
- ・「ため池」を核としたコミュニティづくり

“かがやきの北池コミュニティ”をサポートし、ふれあい交流事業を企画します。

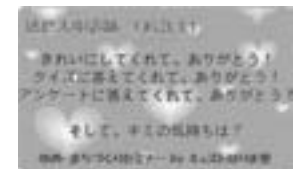
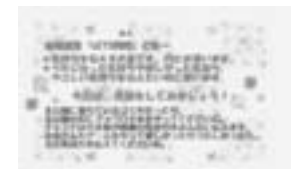
①地域資源発見！

- ・2005.6.12 [日] 第3回となる新井用水路のウォーキングを開催しました。
- ・約30名の参加者と共に日岡を巡り、城山で加古川の眺望を楽しみ、持参のお弁当を広げて歓談しました。

②地域通貨「LETS阿閉」の試行

- ・平成15年、国土交通省から地域振興アドバイザーを受入れて以降、地域通貨の導入を検討してきましたが、今年度2つのフェアで試験実施しました。
- ・子どもたちに、ボランティアへの参加のきっかけ作りで実績を築きました。

ありがとうの気持ちを…



③コンテナ・ガーデニング・フォトコンテスト

- ・神戸新聞事業社の協賛をいただき、今年で3回目を迎えました。

応募要項より…規定は…

- プランターやバスケットで窓辺や門前を花と緑で彩り、潤いある暮らを楽しんでおられる皆さんの自宅を写真でご紹介ください。
- 写真のサイズはキャビネ版（127mm×178mm）に限ります。（デジタルカメラによる撮影も可能です。なお規定のサイズにプリントしてください。）
- 単写真のみとし、組写真・合成写真はご遠慮ください。応募点数は、1人2点以内とします。（撮影場所を明記）
- 応募作品は、原則として返却いたしません。

審査基準は…

- 環境にあったものが植えられているか。
- 生育状況はどうか。
- デザイン性があるか。

④「ため池」を核としたコミュニティづくり

- かがやきの北池コミュニティをはじめとする地域づくり活動をサポートしています。
- 北池上流部をたどるエコ・ツアー、クリーンキャンペーン、魚のつかみ取り、バードウォッチングなどをサポートしました。



⑤ゆめ・まちづくりセミナー

『古代の竪穴住居・現代によみがえる茅葺!』

- 大中遺跡を舞台に、『ゆめ・まちづくりセミナー』と題して、ため池に生える『葦』の活用をテーマに『茅葺』に取り組みました。
- 水質浄化という『恩恵』を与えてくれる『葦』をため池から刈り取り、束ね、茅葺屋根に再生しました。
- 茅として活用されたあとは、植栽の苗床と

して肥料になり、また土に返していきます。

循環型のシステムとして…

- 『葦』は、刈り取った時点で「建築材料」としての『茅』に呼び方が変わります。
- 大中の古代「むら」も環境にやさしい、人にやさしい暮らしが営まれていました。
- 参加者が力を合わせて取り組んだ茅葺。やさしい暮らし方を学ぶ良い機会になりました。



体験ワークショップ…





Ⅲ. どんな成果があったの？

新井川のエコ・ツーリズムを通して、参加いただいた皆さんに、わが町播磨町の貴重な地域資源を再発見していただきました。

コンテナ・ガーデニング・フォトコンテストでは、「花で彩るまちづくり」というテーマで、播磨町らしいコンテナガーデンの啓発活動を実践しました。

「かがやきの北池コミュニティ」の運営に関しては、魚のつかみ取り大会・バードウォッチングのお手伝いができ、参加した地域の皆さんと楽しいひと時を過ごすことができました。

「ため池コミュニティフェア」では、参加者の皆さんにため池の葦を使ったカヤブキの小屋づくりを見学していただき、水質浄化のシステムを啓発することができました。

最後に、「ゆめ・まちづくりセミナー」を

通して、葦による水質浄化のシステム啓発にとどまらず、こころ豊かな人づくり500人委員OB会播磨ブロック、大中支援会の皆さんをはじめ、たくさんの方々とのネットワークづくりができました。

Ⅳ. これからどうするの？

4年間の活動では、実践を通して得られる連携の広がりや、小さな一歩からしか始まらないことを実感させ、今後の活動の自信につながりました。

今後も、播磨町の貴重な地域資源を生かして、たくさんの方々ともちづくりの現場で共に時間を共有し分かち合える「きっかけ」をつくること、より多くの方に関心を持っていただくための「環境」をつくること、この2点を柱に、工夫を加えて魅力ある企画づくりに取り組んでいこうと考えています。

地域の資源を財産として、新たな文化を育みながら、誰もが気持ちよく住まえる播磨町を目指して活動の質を高めていきたいと考えています。

Ⅴ. まとめ

我々の塾では、「参画」と「協働」の理念に基づく具体的な実践活動を目的としています。まちづくりの中で我々にできることを見つけ出し、行政とのパートナーシップをもって、住みよいまちにしていくことができればと考えています。

塾のモットーは「できるときに、できる人が、できることをやっ行ってこう！」とやることです。これからもますます、私たちの塾の活動に興味を持って、面白そうだな…と関心を持っていただき、参加していただける方の輪が大きくなることを願います。



事業実績表

月 日	事業内容	実施場所	対象参加者数	スタッフ数
4/ 8 [金]	事業計画の立案	中央公民館	—	7
4/26 [火]	かがやきの北池コミュニティの年度計画	野添コミセン	—	15
4/29 [金]	緑化フェア参画 「地域通貨試行」	であい公園	200	5
5/ 6 [金]	検討会議(感! ため池博 に関して)	中央公民館	—	7
5/28 [土]	いなみ野ため池ミュージアム オープニング・イベント参画	加古大池	150	7
6/12 [日]	『エコ・ツーリズム』ウォーキング・イベント	新井用水路	25	15
6/23 [木]	かがやきの北池コミュニティ検討会議	野添コミセン	—	5
7/ 8 [金]	検討会議	中央公民館	—	10
7/10 [日]	『エコ・ツーリズム』北池水路調査	北池用水	—	5
8/ 6 [土]	検討会議	中央公民館	—	5
9/ 3 [土]	検討会議(事例調査に関して)	中央公民館	—	5
9/ 9 [金]	検討会議(事例調査に関して)	中央公民館	—	5
9/15 [木]	先進事例調査 環境再生循環システムとしての“茅葺” 神戸市北区の藍那地区で進む里山再生の取り組み	国営明石海峡公園 神戸地区	10	
10/ 4 [火]	かがやきの北池コミュニティ検討会議	野添コミセン	—	15
10/ 8 [土]	検討会議	中央公民館	—	5
10/13 [土]	検討会議(大中遺跡でのワークショップ開催に関して)	播磨郷土資料館	—	5
10/23 [日]	『魚のつかみ取り大会』	北池	100	5
10/27 [木]	検討会議(ゆめ・まちづくりセミナー開催検討)	野添コミセン	—	5
11/12 [土]	検討会議(ゆめ・まちづくりセミナー開催検討)	南部コミセン	—	5
11/16 [木]	検討会議(大中遺跡でのワークショップ開催に関して)	播磨郷土資料館	—	15
11/21 [月]	検討会議(ゆめ・まちづくりセミナー開催検討)	中央公民館	—	7
12/ 2 [金]	協力依頼⇒藤本組(カヤカリ)	狐狸が池	—	2
12/10 [土]	ため池協議会の意見交換会「末々池」	西二見公民館	—	1
12/13 [火]	懇親会	竹庄	—	7
12/27 [火]	検討会議(ゆめ・まちづくりセミナー開催検討)	播磨県民交流広場	—	5
1/ 7 [土]	カヤカリ(事前の材料調達)	狐狸が池	—	5
1/11 [水]	ゆめ・まちづくりセミナー講演内容に関して 横山孝雄先生	プラザホテル	—	1
1/14 [土]	ゆめ・まちづくりセミナー 第1日目	野添コミセン	35	7
1/20 [金]	ゆめ・まちづくりセミナー 準備	播磨郷土資料館	—	5
1/28 [土]	ゆめ・まちづくりセミナー 第2日目	野添コミセン・播磨大中遺跡	30	7
2/11 [土]	小屋づくり	大中遺跡	—	
	ゆめ・まちづくりセミナー 第3日目	野添コミセン	30	10
2/12 [日]	『バード・ウォッチング』	北池	80	7
2/25 [土]	ゆめ・まちづくりセミナー 第4日目	大中遺跡	35	5
2/28 [金]	カヤブキ	大中遺跡	—	7
3/2~9 [木]	カヤブキ 計7日間	大中遺跡	—	5
3/10 [金]	準備	大中遺跡	—	5
3/11 [土]	ゆめ・まちづくりセミナー 第5日目	大中遺跡	100	5
3/19 [日]	いなみ野ため池ミュージアム フィナーレ・イベント	兵庫大学	1,000	5
3/21 [火]	カヤブキ・ワークショップを振り返る 報告書の作成	野添コミセン	—	5
3/27 [月]	コンテナ・ガーデニング・フォトコンテスト審査会	(財)花とみどりの研究所	—	3
4/ 9 [日]	次年度の取組み検討会	大中遺跡	15	7

【先進事例視察調査レポート】

2005.9.15 14:00～

@国営明石海峡公園事務所神戸地区現場事務所

本位田 有恒氏よりレクチャー

■ あいな里山公園

◎ 淡路側は、関空の土取り場の再生を目指した国営の公園整備。神戸側は、…

- 藍那駅から徒歩20分。
- 甲子園の60個分の広さ。
- 茅葺の民家を再生。
- しあわせの村の真北。
- 造成・埋め立てによる開発させた公園。

◎ 里山公園は全国に多数あるが、2haからせいぜい10ha程度のもの。

- 田んぼもせいぜい3～4枚程度。
- 団体のかかわりもせいぜいひとつのクラブを作る程度。

◎ 複数のクラブを巻き込んで、国がやるのは初めての試み。

- コストを抑える狙いもちろんある。
- 市民の想いを形に変える、活動のフィールドにしている。
- 農業は簡単なものではないが、たくさんの団体に入って関わってもらう。
- 国はハード面の整備にとどめる。

◎ 里山まつり実行委員会

- 市民が主体で開催している。
- 国（公園事務所）も共催で関わるが、お金は出さない。
- 今から4～5年前（1999年?）、『ため池改修』をテーマに国がイベントを仕掛けた。
- 水の事情が悪い土地で、田んぼを復活させて農業をする前提となる。
- 夏には水枯れしてしまうところ。園内233haの中に160個ほどのため池がある。
- 年に1回の仕掛けのイベントとして定着してきた。茅葺講座もやった。茅葺屋根の仕組みを知り、実際に葺いてみる。

◎ あいな茅葺くらぶ（講座の卒業生による）

- 民家の再生に、勉強しながら・楽しみながら

がら手伝いたいと結成された。

◎ あいな里山づくりプロジェクト

- 田んぼを放棄せず、人が入って、草を刈って、守る。かえって安上がり。他にも17の団体が参画しているが、すべてボランティアな活動。

◎ あいな茶屋

- 地元のお母さん方が、おばあちゃんの伝統食・芸や味を残したいと結成。
- 月に1度、試食会を開催。将来はレストランを営業したいと考えている。

◎ 茅葺屋

- 守さんが主宰。コーディネーターとして活動。
- 将来は、国営公園の来場者へサービスを提供する主体になってもらう。

◎ あいな公園のコンセプト

- 昭和30年代の景色を再生する。
- 石油の出回ってなかった頃をイメージしている。炭を焼き、薪を刈る。（循環型）
- エネルギー源は、バイオマス・太陽光・風力など。

◎ 国営公園は国土交通省が所管し、都市公園法で位置づけられる。

- 国立公園は、環境省が所管する自然公園。
- 自然を保存することが目的で園内の建造は厳しい制限がある。

■ 公園整備も成熟の段階へ《民営化》

◎ 国営公園は通常、財団法人公園緑地管理財団が管理運営していた。

- 淡路側もそうになっている。
- 市民から案を出して関わっていく。指定管理者制度による民間委託管理。
- アクションリサーチ部会 ⇒ マネージメントを検討する部会。市民参画で仕組みを考える。
- ユニセフパークプロジェクト ⇒ 子どもたちの子どもたちによる子どもたちのための公園づくり

◎ あせらずに、考えながら、つくりながら、

公園を整備していこうというプラン。

◎ 藍那の名の由来…

- 染色の話や言い伝えはあまり出てこない。
- 藍染の藍とは特に関係ない?
- 播磨国と攝津の国が出会う境界で、相坂の地名にあるアイが変じたものよう。
- 炭焼きの山で、炭焼き職人は山崎のほうから出稼ぎに来ていたらしい。

◎ 4～5年先に、半分の100haについて、一部開園を目指している。

- 現在は、別に柵があるわけでもなく、オープンしているが開園はしていない。
- 土地の買収前からハイキング道があり、人の往来はある。
- この辺りは、平家の落ち谷のようで鶴越の街道に近く兵庫と三木をつないでいた。
- 源義経が、石が谷の合戦に向かう途中に通ったといわれている。平家の落ち武者が住んでいた…?
- 辺りにまったく人家がなかった。原生の自然が残った貴重なところ。民家は、園内を外れたところに密集している。
- 周囲に産業廃棄物処理場ができ、宅地の開発が進んできた。だまって見ていられない。
- 神戸市で保存していた茅葺の公民館を移築し再生する計画。公園のエントランスには、長屋門を建築し、農村舞台を設ける。神社の脇に娯楽として楽しまれた農村舞台の再生。

II部

茅葺屋 守隆氏

神戸芸術工科大学研究室 石井教授のゼミで、茅葺民家を調査したことが活動のきっかけ。

茅葺の魅力に取り付かれた。

■ あいな集落の特異性

- 里山の集落は、民家が点在していることが多いが、藍那の場合は、ギュッと密集している。

■ 調査時点で神戸市には1200棟の民家が残

っている。(自治体としては全国で第4位)

- 金属が被っているものも含む。(保存のラップされた状態。茅葺は生きている)
- 維持が難しく減少傾向にある。
⇒材料がない、職人がいない、古臭い。
- 優れた機能 ⇒断熱性能や遮音性能で茅葺は優れる。省エネ効果。環境にやさしく、循環できる材料。

◎ ヨーロッパの茅葺

- 機能に新しい評価と解釈が加えられている。ただ単に、古いものを残すことではないと考える。

■ 茅葺屋の取組み

①現場体験

②冬の茅刈り

- 藍那の倉庫に材料をストックしている。
- 12月から2～3月上旬までが時期。
- カヤカリ：生き物にも出会える。都会人にとってはまれな自然体験。
- 人が『刈り取る』という行為が、植物の生態系に働きかける。⇒ススキやキキョウ… 人の手が入らなくなると不思議と消えていった。

③茅葺小屋を街で作る (ゲリラ作戦)

- 子どもとワークショップを2例ある。
- ワッと建てて風のように去っていく。「古いもの」をという文脈ではなく、新しい解釈を加える。
- 東灘区の小学校の校庭でやったとき… 子どもと父兄ばかりでなく、周りで見ている高齢者も郷愁があり参加してくる。
- 西区の農業公園で祭りに参加 ⇒7月に茅葺民家の探検イベントを実施。80名の募集に300名の応募があった。1日3回5班に分けて15クルー対応した。⇒160年前の茅葺民家の再生(移築して復元した)1間四方で、2tトラック一杯の茅を使った。
- 小学校にバーベキュー広場を作る。薪を蓄える小屋を茅葺で作る。トタンでごま

かした。

- 身近な材料で葺ける。
- 仕上げの仕方で容量も自在。
- 葉を落として刈る？ 葉を残して刈る？
仕上げ次第で色々。
- 材料もいろいろ。特徴にあわせて使い分ける。⇒ススキ、オガラ、葦は耐久性が良く下に葺く。イナワラはやわらかく豊富で扱いやすいが耐久性に劣る。腐れば肥料として循環する。理にかなったりサイクル材料。
☆少しずつ傷みは出てくるが、花壇の肥料に循環する。
☆小麦は仕上がりがきれい。いなみ野台地には小麦の栽培が盛んだった。
☆ため池に生える葦は、持ちがよく重宝する材料。葦が出てくるから良い藁ができて屋根の材料になった。
☆大きな縫い物と思えばよい。裏と表になる材料を見極める。日本では押さえに竹を使うが、イギリスでは合理的に鉄筋を使う。局面が出せるので、形が実に豊富。
- 形もいろいろ
 - ☆屋根勾配：美山はきついが45°が一般的。
 - ☆軒で厚みが30cmほど。棟に行くほど薄くなる。厚みで変わる見せ方…（見せ方によって厚みを変える。）
- ススキを刈る時期は…
 - ☆立ち枯れている状態の1～2月に刈るのが理にかなっている。
 - ☆葦は結構早く刈れる。北池の場合は、穂が飛ぶことにクレームが出るので早い時期に刈ることは可能。
 - ☆刈っていないところの古い葦は、素直じゃない。曲がっていたら、保管の時にプレスする。
 - ☆足元が乾いているところで干す。
 - ☆干しておく… 風物になる。⇒ティピー、藁熊…
 - ☆燃やされないように、火の始末や防火対

策が必要。

- 茅を葺く難しさは…
 - ☆藁・葦・ススキ、材料は身近なもので難しくもあり楽しくもある。
- あるもので葺く。システムを作る。
 - ☆循環の仕組みを実感できる。
 - ☆イナワラ、麦わら：耐久性は劣るが毎年取れる。傷めば簡単に補修できる。
 - ☆理解の裾野を広げる。

【'05コンテナ・ガーデニング・フォトコンテスト】より

今年度の応募作品は、22点の作品が集まった。表彰に当たって、兵庫みどり公社花とみどりの研究所技師指導の藤岡作太郎先生に審査をお願いした。

★講評

「22点の作品が集まったことに驚いている。グループ化した継続的な活動の利点が出ていると思われる。他人の作品の良いところを見て、自分でも試して個性を出そうとして努力している。優劣はつけ難く、昨年より更にレベルアップしている。」

★各作品の評価

《優秀賞》

松本美音子

- ・日陰の条件のもと花を寄せ、場所に応じた植物を選んでいる。

本谷かおる

- ・つるものとコンテナの調和がよく、全体の中で緑と花の調和ができています。播磨町での家庭緑化にあっている。

藤原八子穂

- ・古い伝統を保全しつつも新しい洋花を入れて調和している。保全の代表的なもの（播州型）

井元春江

- ・育て方、花木と一年草の組み合わせ、高・

中・小の立体的なところが良い。播磨町全体に示唆を与えている。

松本かをり

・立地条件に合う花を選んでいる。ポイント・アクセントのつけ方が良い。立体植栽、和洋木との調和が良い。

《デザイン賞》

猶原カツ子

・流木・置物・鉢の形と種類全体の配置が良い。

三宅絹代

・清純な感じが良い。トレリス・枕木・アーチなど木製ガーデングッズをよく使っている。

《技術賞》

村田満彦

・植物の育成の良さと配置の仕方が良い。

越田靖子

・多彩な植物を一同に開花させる能力、育成の技術が良い。

《努力賞》

猪井勝子

・家庭的で明るい彩が良い。

和田勝子

・目標とする花と野菜、果実が調和している。

神吉 恵

・コンテナ・ガーデンとして配置が良い。

セミナー参加者の声より

『ゆめ・まちづくりセミナー』最終日の3月11日 [土]、茅葺を播磨大中国古代遺跡の中に蘇らせました。ワークショップに参加していただいた皆さんから、一言ずつ感想を伺いました。

小野さん

貴重な体験ができました。子どもの頃に帰って“わくわく”することができました。

木村さん

とにかく、ありがとうございました。

竹中さん

近くにある材料でこれだけのことができたのは感動です。昔の技術を学び伝えることも大切だと感じました。

吉田さん

予想以上に苦勞しました。からだと智慧を存分に使ったことが印象に残ります。

畔上さん

和気あいあいと、いきいきして、体験活動に参加できました。

小林さん

短い期間に素晴らしいものが出来てよかった。

松本さん

途中の手伝いしかできななかったが、普段やれないことができ、また、たくさんの人の力を集結して創り上げたことが良かった。

住田さん

知らない人の中で緊張したが、貴重な体験ができました。

星島さん

ワークショップの2週間前に誘いを受けて参加しました。当初は「どうなるか?」心配でしたが、短期間のうちに見ちがえる素晴らしい出来栄に“サプライズ!!”先ほどの感想にもありましたように、智慧とからだを目一杯使い、限られた茅を無駄なく100%使い切ったのは「立派!!」と、感心しています。

山下さん

遺跡公園の担当者として横で見させていただきました。すごい労力が必要でたいへんだ

と感じました。今後の活用にも智慧を絞っていただけたらと思います。

天野さん

ありがとうございました。

廣田さん

素晴らしいものができました。北池では難しいかなあ。

松本さん

昔の人はすごかったんだなあ。中々たいへんな作業でした。

安田さん

屋根を葺く手間に驚きました。苦労を共に協力して完成できたのは良かった。

吉本さん

途中であまり手伝えず申し訳ないと思っています。今は締めくくりに参加でき、カヤブキの良さを伝えていきたいと実感しています。

本谷さん

皆さんの協力のおかげで完成することができました。ありがとうございました。本当にいいものができました！

島崎さん

はやし立てたみたいなどころもあって責任を感じていましたが、なかなか手伝えず申し訳ない気持ちです。ただ、苦労して、大変な思いをしてこそ、できた時の感動も大きなものが得られるものですね。せっかくのいいものだから、少しでもこのあともおいとける方向で考えてくださいね。

守さん

本当にいい機会に恵まれました。『昔の人はすごいなあ』と思うとともに、皆さんの成果

を見て『もっとすごいなあ』と感心しています。でも、造って『さあ、できました』では終わらないですよ。茅葺からはもう逃げられないんですよ。これからは、かわいがって、どんどんいいものにしていくことを考えてくださいね。私もまた参加できたら嬉しいです。

神吉さん

キャストはりまのメンバーは10名不足です。茅葺小屋のかたちは想像もつきにくく、大中遺跡支援会の皆さんをはじめたくさんの方々の協力と、守さん、島崎さんの指導をいただきながら完成できました。ものづくりの楽しさを改めて実感することができました。たくさんのお手伝い、本当にありがとうございました。

塾からの提言

- ①「参画と協働」は、行政と住民がそれぞれの立場を生かして、地域課題を解決するための手法。
- ②課題解決の目標を「共有」して、できることをできる側が主導して「協力」して取り組む。
- ③キャストはりま塾も、コミュニティづくり、地域づくりを進めていく「しかけ」を多様なメニューで提供して行きたいと考えています。
- ④播磨町の関係部署との連携も、ますます深まっていければと考えています。

加古川の資源 もっと生かそう

「石二鳥」葦狩りセミナー

加古川を流れる水は、清流とよび、魚が豊富に育ち、川魚が獲れる。この清流を、加古川市が「清流の宝庫」として、市民に開放している。この清流を、加古川市が「清流の宝庫」として、市民に開放している。

20人が中州で作業

「加古川市が、清流の宝庫として、市民に開放している。この清流を、加古川市が「清流の宝庫」として、市民に開放している。

環境問題 川の浄化作用を促進 まちづくり 大中遺跡でかやぶきに



「大中遺跡」で、茅葺き体験が行われた。参加者は、茅を刈り取り、束ねて、屋根に葺きつける作業を行った。この作業は、伝統的な建築技術の継承と、環境問題の解決の一環として行われている。

茅葺き体験の
茅束体験を
14日、加古川市
大中遺跡で行った。参加者は、茅を刈り取り、束ねて、屋根に葺きつける作業を行った。この作業は、伝統的な建築技術の継承と、環境問題の解決の一環として行われている。

「大中遺跡」で、茅葺き体験が行われた。参加者は、茅を刈り取り、束ねて、屋根に葺きつける作業を行った。この作業は、伝統的な建築技術の継承と、環境問題の解決の一環として行われている。

「大中遺跡」で、茅葺き体験が行われた。参加者は、茅を刈り取り、束ねて、屋根に葺きつける作業を行った。この作業は、伝統的な建築技術の継承と、環境問題の解決の一環として行われている。

「大中遺跡」で、茅葺き体験が行われた。参加者は、茅を刈り取り、束ねて、屋根に葺きつける作業を行った。この作業は、伝統的な建築技術の継承と、環境問題の解決の一環として行われている。

ふあいる

◆現代のかやぶき完成
播磨町を拠点に住民主
体でまちづくりを進める
「播磨ゆめづくり塾」の
一つ「キャストはりま塾」
が、播磨大中国古代の村「同
町大中」にこのほど、か
やぶきの建物（高さ2・
6m）を完成させた。



「はりま塾は、ため池
で採れる資源の活用を
考える目的で、今年1月
から講座を開始。大中遺
跡近くのため池や加古川
の中洲で採取したヨシを
使って、受講生ら約30人
が仕上げた『写真』。参加
者からは古代人の気分にな
れたと好評で、福原隆
泰塾長（右）は「自然との
共生を体感できた。今後
も続けていきたい」
(垣)

太古の住まい「復活」を

大中遺跡（播磨）で茅葺き体験

「はりま塾」は、ため池で採れる資源の活用を、今年1月から講座を開始。大中遺跡近くのため池や加古川の中洲で採取したヨシを使って、受講生ら約30人が仕上げた『写真』。参加者からは古代人の気分になれたと好評で、福原隆泰塾長（右）は「自然との共生を体感できた。今後、も続けていきたい」(垣)

「はりま塾」は、ため池で採れる資源の活用を、今年1月から講座を開始。大中遺跡近くのため池や加古川の中洲で採取したヨシを使って、受講生ら約30人が仕上げた『写真』。参加者からは古代人の気分になれたと好評で、福原隆泰塾長（右）は「自然との共生を体感できた。今後、も続けていきたい」(垣)

「はりま塾」は、ため池で採れる資源の活用を、今年1月から講座を開始。大中遺跡近くのため池や加古川の中洲で採取したヨシを使って、受講生ら約30人が仕上げた『写真』。参加者からは古代人の気分になれたと好評で、福原隆泰塾長（右）は「自然との共生を体感できた。今後、も続けていきたい」(垣)

